

令和 6 年 2 月 9 日

人間社会学研究科長 様

審査委員会

主査 坂本 雅俊

副査 木村 勝彦

副査 滝 知則

博士学位請求論文審査報告書および最終試験結果報告書

研究科名	人間社会学研究科	専攻名	地域マネジメント専攻
学籍番号	1813D02	氏名	牛 夢沈
論文題目	中国における大学附属博物館の研究 －日本の大学附属博物館と比較して－		
学位論文概要と意義			
<p>本論文は、大学附属博物館がその大学に属する学生の総合的、合理的な知識獲得の機会を得るために、大学における研究機関として成り立ってきた経緯について、1900 年前後からの信頼できる証拠資料を辿りつつ論じている。また、中華人民共和国の憲法及び中国博物館条例を用い、ユネスコ、及び日本における博物館の定義を参考にして、歴史や保存研究、展示、教育等について比較検討を行うことで、博物館学の学問領域を発展させようと試みた。さらに、中国における広智院イギリス伝教士の布教の場から始まった博物館に関する草創期の運営理論をはじめ、日本の博物館学の研究者棚橋源太郎の論文を分析する等、博物館の原理となるような日中の資料を紹介し、独自の比較資料として考察を加えた。そして、上海大学附属博物館を事例として取り上げ、中国と波佐見の 17 世紀からの陶磁器製造の日本伝搬の交流史に触れ、今日の大学附属博物館同士の交流実践への取り組みを紹介し、教育系博物館の進展に繋がる端緒として締めくくっている。</p> <p>本論文における主たる意義は、博物館学の探求のために、大学附属博物館が、国の支援により、人類学、考古学等の専門家と協力して、展示による教育、娯楽を含めて、歴史資料を分析、保存し、後世に伝えるための使命を果たしていることを、地域マネジメントの学問的視点から論証した点である。但し、世界の大学附属博物館が連携することにより、人類の歴史遺産に向けた、博物館学研究における普遍的価値を創造する必要性が見えてくるなど、今後の課題も出てきている。</p>			
判定			
<p>本論文では、140 編以上の中国と日本の文献を精読し、執筆者の論点を整理した上で丁寧に論考を加えて自らの考えを主張するに至っている。但し、大学附属博物館の分析対象に偏りがあることや、研究手法に欧米の大学博物館を分析対象とすること、中国の大学附属博物館について、さらに多くの具体例を比較検討すべきことが、未達成な箇所として指摘を受けた。論文の全体のストーリーとして</p>			

(様式7)

は、世界の大学附属博物館の連携が始まっていることに触れ、人類の歴史遺産を、純粋に研究対象とする地域マネジメントの視点から、国際交流、文化発展、平和と協力の促進に寄与する可能性を論証しており、一定の結論を導きだしていることから本論文の学問的意義を認める。

博士学位請求論文審査および最終試験の結果 合格 と判断した。

※下線部に合格または不合格と記入して下さい。

[人間社会学研究科 学位論文審査基準]

1. 研究目的が明確である。
2. 倫理的配慮を含む的確な研究方法が取られている。
3. 研究結果は適切かつ論理的にまとめられている。
4. 研究内容は独創性を有している。
5. 質疑応答を含む的確なプレゼンテーションがなされている。

評価項目	Positive		Negative	
	4	3	2	1
1 研究目的の明確性	✓			
2 研究方法の的確性	✓			
3 論文作成の論理性	✓			
4 論文内容の独創性		✓		
5 プレゼンテーション能力	✓			

※該当する点数にレ点をつけてください。

- 評価基準 すべての評価項目において、1がないこと。
- 5項目の合計が12以上であること。